

事例⑧ 第1学年・7月～10月

主として関連する10の姿：豊かな感性と表現、思考力の芽生え、言葉による伝え合い

「体験を通した学び—感性を働かせて気付き、伝え合う姿から—」

子どもの姿

入学して3カ月。子どもたちの休み時間を覗いてみると、ぬり絵や粘土を楽しむ子、友だちとごっこ遊びをする子、広い校庭で思い切り体を動かす子、花壇で虫取りをする子など、友だちと一緒に身体を動かして、見て、触れて、五感を働かせて楽しむ様子がたくさん見られます。

1年生のカリキュラムでは、こうした子どもたちの実態を踏まえ、学習の中で体験的な活動を多く取り入れることを大切にしています。本事例では、生活科の「なつがやってきた」と、算数の「かたちあそび」の中で、子どもたちが表現を楽しみながら学ぶ様子や仲間との伝え合いが広がる様子を紹介します。

園でのあそびや経験をつなぐ

保育園では、夏の頃になると水遊びや色水遊び、泡遊びなどをして楽しんでいます。あそびを通して、自分なりの「やりたい」を見つけたり、上手に行うコツをつかんだりしています。5歳児になると、自分の満足いったあそびのことを友だちや保育士にもたくさん教えてくれます。小学校でのグループ学習での伝え合いにつながる姿があります。

(保育者)

小学校では、身近なものに目を向け、何かに見立てて考えたり、形や色、音、触ったときの感じなどを大切にしながら表現したりする活動を学習の中に取り入れています。気づいたことや感じたことを友だちと伝え合いながら、もっとやってみよう、よりよくしたいという意欲に繋がられるように学習を進めていきます。

(小学校教員)

就学前の子どもたちは、園での遊びの中で様々な道具や素材、自然物などに触れ、繰り返し関わることを通して、ものの性質や特徴を掴んでいきます。こうした体験的な学びのプロセスは、就学後の子どもたちにとっても重要です。五感を通した体験で心が揺さぶられ、自ら問いを見つけ、試行錯誤したり、気づいたことを友だちに伝え、友だちの考えを取り入れたりしながら、活動が一層豊かになる経験は、その後の学びや仲間関係を支えていきます。

(コーディネーター)

子どもの学びや経験

■生活科の単元：なつがやってきた「みずであそぼう～しゃぼんだま～」



どうしたら、大きなしゃぼんだまができるかなあ？

行動・発言

- 夏の校庭探検や、「みずであそぼう」を通して、夏を体感しながら、遊びの道具を自分たちで作る経験をしてきた子どもたち。今度は牛乳パックやストローなど、身近なものを使ってしゃぼん玉遊びを楽しみました。
- 「小さなしゃぼんだまがたくさんできた！」「大きくするにはそーっと吹くといいよ」しゃぼん玉は就学前から遊んできた子どもも多く、気付いたことを伝え合ったり、おもしろさを共有したり、友だちと関わりながら楽しむ姿が見られました。

ポイント

■考える力を引き出す教材の工夫



◎配慮事項（教材の工夫等）

- 給食のストローを使って繰り返し遊ぶうちに、児童から「家にある他のストローでもやってみよう」という声があがりました。そこから、太さの異なるストローを持ってきたり、切り込みの入れ方を変えて試したり、様々な工夫をして楽しむ姿に繋がりました。
- さらにうちわや針金に糸を巻いたものをグループ分用意すると、友だちと試しながら、大きなしゃぼん玉やおもしろい形のしゃぼん玉を作る方法を考える姿に繋がっていききました。

■算数科の単元：かたちあそび

「身の回りの空き箱を集めてどんなものが作れるだろう？」（立体図形の特徴、合成・分解）



これとこれを繋げたら、きりんみたいにならないかな？

行動・発言

- 身の回りのものを使い、動物やタワー、乗り物などを作る活動を通して、形のもつ特徴やおもしろさに気づく学習をしました。
- 動物づくりでは、グループの仲間と材料を眺めたり、組み合わせたりしながら、何の動物が作れそうか相談する姿に繋がりました。
- 子どもたちの中には、同じ形で仲間に分けたり、大きさに着目して組み立てようとしていたりする子もいました。

→形や大きさのおもしろさ、仲間と相談しながら作ることの楽しさを感じる中で、高いタワーを作ったグループがありました。教師が全体に紹介すると、自分たちも高いタワーを作りたい気持ちが高まりました。どうしたらより高く積み上げられるか、仲間と相談しながら試行錯誤する姿に繋がりました。

行動・発言

- あるグループでは、高くしようとたくさん積み上げたところで、不安定になって倒れてしまいました。すると、「どうしたら崩れないかな」「下の方を大きな箱にすればいいんじゃない？」グループのみんなでアイデアを伝え合う姿がありました。
- 「もっと高くしたい！」目標をもって、グループで組み立て方を相談したり、他のグループの組み立てる様子を観察したりする子どもたち。手を動かしながら、友だちと伝え合いながら、感性を広げてものの形や大きさを感じ取っていききました。

